

平成30年1月29日

地域連絡協議会議長調漸様  
地域連絡協議会事務局御中

## 意見書

地域連絡協議会委員

梶村 龍太

犬塚 純一

神田 京子

道津 靖子

### 1. はじめに

第13回地域連絡協議会では、平成28年9月6日付で長崎大学はBSL4施設の基本構想の完成版を作成し、119部を関係者に配布したとの報告がありました。しかし、私たちは、地域連絡協議会の委員として基本構想の完成に至る協議の方法と議論のあり方には問題があり、基本構想は地域住民の同意を得たものではないと考えます。

今後、より具体的な地域住民の安全・安心の問題について議論が行われますが、基本構想作成・配布までの協議の在り方を見る限り、今後の議論が適正、公正に行われるとは思われません。

そこで、委員有志により本意見書を呈します。地域連絡協議会の議長、事務局は適正な協議を行って下さい。

### 2. 基本構想の瑕疵

以下述べるとおり、長崎大学が完成版として配布した基本構想には、瑕疵があり、地域住民の同意を得られたものとは言えません。

#### (1) 協議会の議論の在り方の欠陥

事務局は8月22日の第12回地域連絡協議会から次の第13回まで約4カ月も期間を空け、その間大学は製本した基本構想を完成版として関係各所に配布し、国の12億円余りの予算を取り付け、施設着工を既定路線として進めています。約4ヶ月もの空白期間での事態の急激な進展は、多くの委員にとって不意打ちと感じられました。

地域連絡協議会では基本構想に対し、多くの積み残した議論がありました。第13回で指摘した梶村委員のメールによる質問は、施設外で事故が発生した場合の施設管理者の具体的な責任の取り方というそれまで議論されていない重要なテーマを提起するものでした。しかし、事務局は提出された書式が違うので、地域連絡協議会での検討対象としなかったと回答しました。地域住民と真摯に議論しようという姿勢がないことは、このこと一つをとってみても明らかです。

実際の協議の席でも、大学側は一方的な安全性の説明を行うばかりで、委員の質問・意見に対しかみ合った回答が行われることは稀です。このような、協議会の在り方では議論に深

みが欠け、いたずらに時間ばかりがかかり全く不毛です。

通常、事前の文書での意見・質問を求めるのは、事前に調査・検討して丁寧な回答を行うためです。しかし、協議会で実際に正確丁寧な回答がなされ、回答を踏まえて議論することは稀です。前回は、海外施設の報告に40分以上の時間を割きながら、道津委員、神田委員の事前提出の質問・意見について触れさえしませんでした。

このように、地域連絡協議会では実のある双方向の議論が行われることは稀です。

長崎大学は、安全・安心のために地域住民が提起する問題について真摯に議論しようとしていません。これは、「地域住民の安全・安心の確保等について協議するため」設置するという地域連絡協議会の趣旨に反します。地域住民と協議をすれば、反対意見が出ることは当然です。反対意見をどう汲み取って、構想に生かしていくかが協議会の運営手腕です。しかし、本協議会にはそのような視点はありません。大学が考える安全を押し付けるばかりで、地域住民に安心を与えるための議論をしようとはしません。

このように、地域連絡協議会での議論状況、議事進行には大きな欠陥があります。

## (2) 基本構想の内容的欠陥

施設外で事故が発生した場合の施設管理者の具体的な責任の取り方について記載がない基本構想は、住民の基本的な理解を得られたとは言えないという梶村委員の意見は、住民の安心という視点からは当然の意見です。

そこまで踏み込んだ基本構想を提示して、住民の理解を求めて、初めて地域住民の理解を得たと言えますが、その点はおざなりにされました。

## (3) 基本構想についての意見のまとめ

地域連絡協議会という名のとおり、委員は個人としての資格だけで出ているわけではなく、協議の結果について地域住民に対する責任があります。しかし、このとおり基本構想は内容的にも不十分ですし、協議会がおよそ住民と双方向の議論を行うという場として機能していないことから、手続き的にも地域住民の意思を反映したものとは言えません。

3. したがって、長崎大学が取りまとめた基本構想は、地域住民の同意を得られていないと言わざるを得ません。今後の協議会の在り方について

今後、基本構想を基に、施設の運用を想定した、より具体的な地域住民の安心・安全についての議論が行われことになると考えられます。しかし、まず長崎大学は、住民の意見を充分にくみ取らずに、重要なテーマを欠落した基本構想を強引にまとめた協議会の在り方を大いに反省すべきです。

私たちは、地域連絡協議会に、施設の近隣地域の住民であれば当然感じる不安に思いを寄せて、双方向の深みのある議論を行うように求めます。長崎大学がここ坂本キャンパスに施設を設置し、永年運営し続けるつもりであれば、今ボタンを掛け違わないように、真摯に地域住民の不安に応える議論を行ってください。

また、本施設の安全性の確保については、地域住民のみならず長崎市全域の市民の理解が不可欠であり、多くの市民も正確な情報の提供を求めています。平成29年9月25日付

「陳情の審査概要について（通知）」にも、長崎市議会の教育厚生委員会の議論で市全域に正確な情報を開示する重要性が記載されています。長崎大学は、地域連絡協議会の議論を踏まえて、市民に向けて積極的な情報提供を行って下さい。

以上の次第ですので、私たちは

1. 一方的な説明ではなく、双方向の丁寧な議論を行えるような地域連絡協議会の運営を要望します。
2. 地域住民が安心できる、地域住民の気持ちに寄り添ったテーマを真摯に具体的に協議するよう求めます。
3. 市民に向けた正確な情報提供を行うことを求めます。

以上